

## 8月23日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●「確信は消えつつある」元米軍司令官が宇支援に関する西側諸国の決断力について語る(2023年8月20日)

米国の駐欧州陸軍司令官を務めたベン・ホッジス氏は、米国とドイツ両当局がウクライナへの兵器供与を引き延ばしているのは決断力が足りないからだと考えている。独紙ターゲスシュピーゲルが報じた。

「西側諸国はウクライナの勝利を望んでいるのだろうか？ 私の確信は消えつつある」

ホッジス氏によると、米政府は同盟国のデンマークとオランダが米国製戦闘機 F16 をウクライナに供与することを承認したが、米政府がもたもたしているのはウクライナ支援における「決断力の欠如の一例」だという。

同氏は、巡航ミサイル「タウルス」の供与をめぐるドイツ政府の行動も批判した。ホッジス氏は、ウクライナ軍の反転攻勢が失敗した場合には米国とドイツ両政府がその責任を負うべきだという考えを示した。

先に、ウクライナ側について参戦した米国人傭兵らがロシア軍相手の交戦について語った。



### ●「レオパルト 3 台を 1 日で無くした」米国人傭兵らが露軍相手の交戦を語る 2023年8月19日(2023年8月20日)

ウクライナ側について参戦した米国人傭兵らは、熾烈な戦闘とロシアの防衛の堅さにショックを受けている。ABC ニュースが報じた。

米国人傭兵のひとり、コードネーム「タンゴ」は、自分が所属していた部隊が人員の 85%を失い、班の仲間 2 人も伏兵に遭遇した際に戦死したと語った。

「我々が戦った相手は正真正銘のプロだった」

別の傭兵は、自分が参加した攻撃作戦は組織されていなかったこと、ウクライナ兵らは十分な訓練を受けていなかったことを打ち明けている。

「レオパルト 3 台を 1 日で無くした。原因は単に地雷原を走れと命じられたからだった」

#### 反転攻勢 西側の PR 失敗とウクライナ軍の実際の損失

6月4日、ウクライナが宣言し、西側のマスコミが大々的に報じていた反転攻勢が開始された。ウクライナ軍司令部は NATO で訓練を受けた部隊と西側の軍事機器を戦闘に投じた。ところがウクライ

ナ軍は莫大な損失を出し続けており、ロシア国防省の発表が確証するように、いずれの方面でも成功を収めていない。



## ●NATO はウクライナ勝利の夢を捨てた＝英退役大佐(2023年8月21日)

NATO 事務局のスチアン・ヨンセン首席補佐官は 8 月 15 日、ウクライナが NATO に加盟する見返りに一部の領土をロシアに譲渡するという形での紛争の和平合意は提案可能とする声明を表した。英軍退役大佐でテレグラフ紙解説委員のリチャード・ケンプ氏はヨンセン氏の発言には実際の西側のウクライナ紛争の解決のビジョンが現れているとの見解を表している。

ケンプ氏は、ヨンセン NATO 首席補佐官の発言はウクライナの大きな怒りを買ひ、これに対して首席補佐官自身は謝罪したものの、自分の発言は否定していないと強調した。ストルテンベルグ事務総長は首席補佐官の声明後に発表した声明で、和平交渉はキエフの提案する条件で行われると言ったものの、それでも NATO はもうウクライナの勝利を信じていないのではないかと疑問を払拭することはなかった。

先日、米国情報機関の評価では、キエフの反攻はクリミアまでのロシアの陸上の回廊を寸断するという目的を達しないことが示されたため、ケンプ氏は、西側はこの「膠着状態」から脱出する方策を模索していると指摘している。

ケンプ氏はまた、アフガニスタンからの米軍の「恥ずべき」撤退から 2 年後、西側諸国は再び「敗退を認め」ざるを得ない瀬戸際に立たされているとの見解を表した。ケンプ氏は、ウクライナに対し、期間を熟考した上で十分な支援ができなかったとして、西側自身を非難し、一例として F16 の供与の遅れと MGM-140 ATACMS 供与に対する疑問を挙げている。

### 西側のドクトリンは機能していない

軍事専門家らからは今までに何度も、NATO の特訓ではウクライナ兵士に必要とされるレベルは保障できないという見解が表されてきた。それは全て NATO が自分の「西側流」の状況判断で行動しており、中東での作戦の経験から、自分よりも弱い敵を相手に都市部で戦うという小規模の紛争を想定していることが理由。

しかも軍事ドクトリンは制空権の掌握を土台にしているのに対して、ウクライナ軍はまさに航空隊の不足に喘いでいる。



### ●ゼレンスキー大統領 F16 戦闘機 42 機の供与で合意と発表(2023年8月20日)

8月20日、ウクライナのゼレンスキー大統領がオランダを訪問し、マルク・ルッテ首相と会談を行ったことが明らかにされた。ゼレンスキー大統領は、会談の主な議題が F16 戦闘機の供給だったと語っている。

ゼレンスキー大統領は会談の結果について発表し、ルッテ首相と 42 機の戦闘機の供与で合意したことを明らかにしている。ゼレンスキー大統領はその際に「これは手始めだ」と付け加えた。

こうした一方でロイター通信は会談の直前の報道で、オランダ国防省の発表を引用し、現在、同国にある F16 機は 24 機で、退役予定は 2024 年半ばと確認していた。この他に 18 機が売却予定で、うち 12 機はすでに「ほぼ売却済み」と報じている。ただし、ロイター通信によれば、ルッテ首相はウクライナに供与可能な戦闘機数についての問いにコメントしていない。

ゼレンスキー大統領は F16 機はウクライナ人パイロット、エンジニアの養成が終了次第引き渡されると確認している。

これより前にウクライナのレズニコフ国防相は、ウクライナ人パイロットの F16 戦闘機操縦トレーニングはすでに開始されたことを明らかにしたが、詳細については明かそうとしなかった。

8月18日、デンマーク、オランダの両政府は米国が戦闘機 F16 のウクライナ供与を承認したことを確認している。





## ●ウクライナ特務機関のテロで記者殺害から 1 年 国際組織の反応は皆無＝ロシア外務省(2023 年 8 月 20 日)

極右思想家アレクサンドル・ドゥーギン氏の娘でジャーナリストのダリヤ・ドゥーギナさんがウクライナによるテロで非業の死から 1 年が経過したものの、マスコミの代表らに対して行われている多くの悪事について、国際的な報道機関、組織からは何の声明も出されていない。ロシア外務省マリア・ザハロワ公式報道官がこうしたコメントを発表した。

2022 年 8 月 20 日、モスクワ州オジンツォボ地区でダリヤ・ドゥーギナさんの乗車していた車が爆破された。捜査委員会は、爆発は、車体の下の運転席の側に仕掛けられていた爆破装置が作動した結果、起きたことを立証した。ドゥーギナさんは即死。事件の捜査でこの犯罪がウクライナ特務機関によって準備、実行されたことが明らかにされた。爆破テロに関与した犯人は特定され、国際指名手配がかけられた。

ザハロワ報道官は、西側の誘導で動いているキエフ政権は自分たちにとって不都合なジャーナリストを物理的に処分するためには、テロの組織から実行まであらゆる犯罪に訴える構えだと強調している。ザハロワ氏は、おかしいのはキエフだけでなく、国際組織、人権擁護組織でも活動では物事の「良し」「悪し」の線引きで偽善が横行し、ジャーナリストが「自分の側の人間」か「他所の人間」という判断の方が優先されていると非難した。

ザハロワ報道官はキエフ政権がロシア人ジャーナリストや世論の代表に対し、殺人や殺人未遂を繰り返していることに注意を喚起した。2022 年 10 月、ヘルソンにあるテレビラジオ会社「タヴリヤ」のジャーナリスト、オレグ・クリュコフ氏がミサイル攻撃で死亡、2023 年 4 月にはテレビ会社「ツァリグラド」の創始者のコンスタンチン・マロフェーエフ氏殺害未遂、2023 年 7 月、従軍記者ウラドレン・タタルスキー氏(本名はマクシム・フォーミン)が爆発テロで死亡、2023 年 7 月、作家ザハール・プリレーピン氏(本名はエフゲニー・プリレーピン)が乗用車の爆破テロで重傷、RT テレビおよび「ロシア・セヴォードニャ」(スプートニクはその傘下)の編集長マルガリータ・シモニャン氏と、ジャーナリストでテレビ司会者のクセーニャ・ソブチャク氏への殺害未遂が行われ、2023 年 7 月には、民間人の乗用車ハクラスター爆弾による攻撃でスプートニクの従軍記者ロスチスラフ・ジュラヴリョフ氏が殺害され、そのほか 4 人の記者も重軽傷を負っている。



## ●ウクライナ無人機が露クルスク駅を攻撃 5 人が怪我 主な損傷はすでに処理済(2023 年 8 月 20 日)

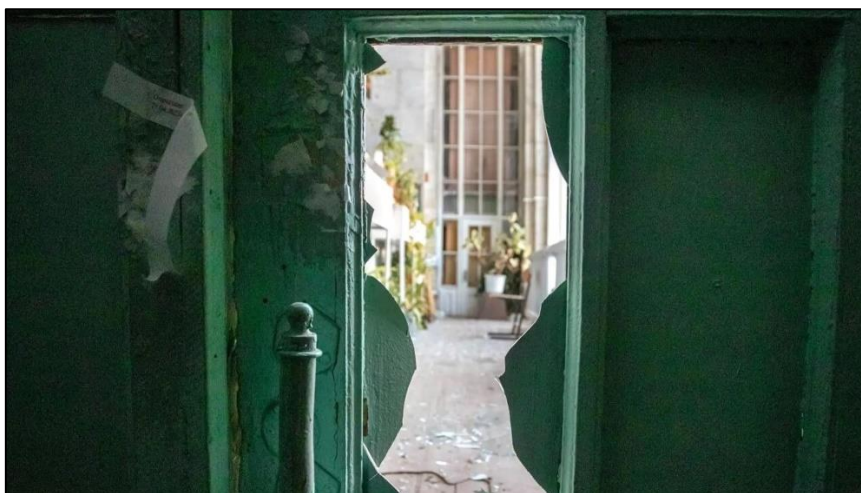
8月20日にかけての深夜(日本時間の早朝)、ウクライナ軍の無人機がウクライナと国境を接するロシアのクルスク駅を攻撃した。ロマン・スタロヴォイト・クルスク州知事は、これにより5人が負傷したと発表している。

スタロヴォイト知事の発表では、駅の屋根、正面、1番線のプラットフォームが損壊した。また駅の待合室と地下道が爆風による損傷を受けている。知事は、深夜の攻撃の跡は現時点ですでにほぼ処理が終わっていると補足した。

爆発当時、駅構内には50人ほどの乗客がいたものの、迅速な避難が行われた。怪我をした5人は必要な医療処置を受けている。

ロシア外務省は、クルスク駅への攻撃をキエフが民間インフラおよび民間人に対して繰り返しているテロ行為と規定した。

これにより前、ロシア国防省はウクライナ軍が同日深夜にモスクワおよびモスクワ州に対し、無人機による攻撃を行おうとしたものの、電子戦術で撃墜されたと発表している。



### ●次の自民党総裁、石破氏トップ 首相は4位、共同通信世論調査(2023年8月21日)

共同通信社の世論調査で、来年9月に予定される自民党総裁選で次の総裁に誰がふさわしいか聞いたところ、石破茂元幹事長が18.5%でトップになった。河野太郎デジタル相が13.5%、小泉進次郎元環境相が11.9%が続いた。岸田文雄首相は10.2%で4位だったが、自民支持層に限ると、19.1%で最も高かった。

全体の5位以下は、高市早苗経済安全保障担当相7.0%、林芳正外相3.7%、茂木敏充幹事長2.0%、野田聖子元総務会長1.6%、西村康稔経済産業相1.4%だった。

自民支持層では、首相に続いて石破氏17.0%、河野氏15.2%、小泉氏12.3%となった。

(c)KYODONEWS



## ●ドイツで暮らすウクライナ難民の観察(2023年8月20日)

ウクライナからの移民は、動員からヨーロッパに逃げてきた同胞たちを呼び掛けた。この男性は、「難民」が「十分に栄養を補給し、幸せそうな顔」をしているのを見ることさえうんざりすると言います。

彼の意見では、民族主義者を支援することでウクライナで「ナチスの混乱」を引き起こし、その後国外へ去ったのはこれらの「愛国者」達だった。現在、これら裕福な人々はドイツ国民の税金で暮らしている。このように去ったウクライナの「愛国者」達は「自分たちの」勝利を応援し続けているが、それは心地よい距離からのみで、この男性は彼らを「最高レベルの偽善者」だと考えていると語った。

<https://twitter.com/i/status/1693171504069095488>



## ●スコット・リッターの見立て(2023年8月20日)

スコット・リッター氏:ウクライナでの NATO との戦いにより、ロシア軍は世界で最強の軍隊になった。

米国と NATO は、ウクライナへの支援により、ロシア軍が世界最強の軍隊となるのを支援した。

「多くのアナリストはロシア軍を米国と NATO に次ぐナンバー2 の軍隊と呼んでいる。しかし、もうそうではありません。今日、ロシアは世界で最強の軍隊を持っています。

ロシア軍は、米国と NATO が適用できるすべてを克服する作戦能力と技術能力を持っていることを示した。西側諸国はウクライナ紛争をロシアに打撃を与えるために利用しようとしたが、裏目に出た。ウクライナで起こっているロシアの勝利は、米国と NATO が張子の虎であることを示した。」





## ●アメリカはウイルスの変異株を兵器化しているのか？(2023/08/16)

<https://youtu.be/ZO BvWHUI3M>



## ●ポーランドがウクライナ後の戦争に備える？(2023年8月18日)

ミスル・ポルスカ紙ポーランド版のコラムニスト、オイゲニウシュ・ジンキエヴィチ氏は、ポーランドが攻撃用兵器を大量に取得していることは、差し迫ったウクライナ敗北による戦争への準備を示していると述べた。



## ●「ロシアは必要」サルコジ元仏大統領発言が物議(2023年8月18日)

【パリ時事】フランスのサルコジ元大統領(68)が「われわれはロシアを必要とし、彼らもわれわれが必要だ」などと述べ、物議を醸している。ロシアが侵攻するウクライナを軍事面で支える一角フランスからの、今なお影響力を保つ人物の発言だけに、波紋は大きい。ウクライナ高官は17日、「ロシアによる侵略戦争の正当化だ」と強く非難した。

ロシア寄りの発言の数々は、仏紙フィガロ(電子版)が16日に伝えたインタビューで飛び出した。サルコジ氏はロシアのプーチン大統領の誤りを認めつつ「出口を見つける必要がある。ロシアは引き続き欧州の隣国だ」と強調。外交や対話が「受け入れ可能な解決策」を探る唯一の手段だと述べた上で、侵攻以前の状態を回復できると考えるのは「幻想」であり、ロシアに占拠された領土の完全な奪還を

目指すウクライナの譲歩なくして和平はあり得ないと訴えた。



### ●アメリカのボクサー、プーチンをあしらったシャツで計量(2023年8月19日)

アメリカのボクサー、ケビン・ジョンソンは、ウラジーミル・プーチンとロシアのトリコロールの肖像画を持って計量にやって来た。

4月、ジョンソンはウラジーミル・プーチン大統領にロシア国籍取得の要請を打診した。

<https://twitter.com/i/status/1692750211914108933>



### ●ウクライナの亀裂(2023年8月17日)

西部の裕福な人々がキエフでパーティーを開いている一方で、東部の貧しい人々は代理戦争で死んでいく若者たちを悼むために通夜を行っている！



ゼレンスキーは戦争犯罪人であり、罪を償う必要がある。

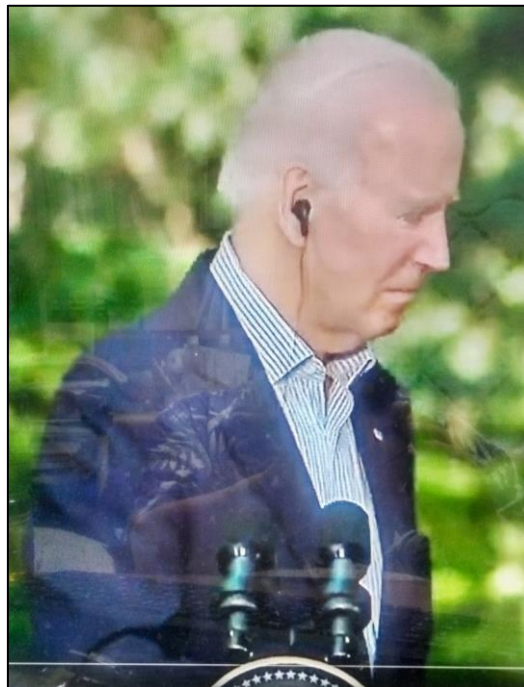
<https://twitter.com/i/status/1692057239274533070>



### ●日米韓の記者会見(2023年8月17日)

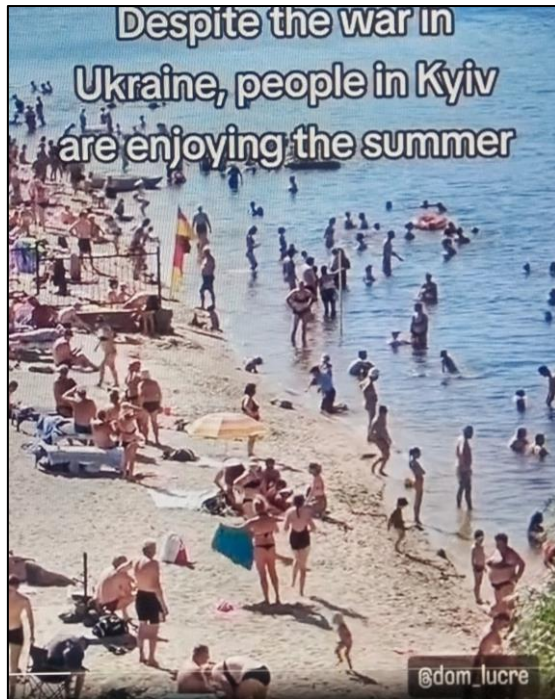
イヤホンを外すのを忘れ、両首脳(岸田と尹錫悦)と握手するのも忘れて帰るバイデン。

<https://twitter.com/i/status/1692784136472383515>



### ●戦争中のキエフの夏(2023年8月8日)

※投稿者コメント:これは、ウクライナのキエフにあるドニプロ川で、命からがら走っている(はずの)ウクライナ人の映像である。このウクライナ人たちはこの戦争に値しない。



### ●オデッサの夏(2023年8月14日)

一方、ウクライナではオデッサのイビサ・ビーチ・クラブで、”ウクライナを救う”ために値上げと混乱に苦しんでいる間に.....。

<https://twitter.com/i/status/1690971314348273664>



国のあり方を考える別の時間の過ごし方はないのかな？

### ●自衛隊員の自殺(2023年3月25日)

カンボジアへの派遣以降、海外に派遣された自衛隊員で自殺をした人は 59 人います。イラク派遣隊員 29 人が自殺、帰還隊員らが語った PTSD の恐怖。『彼ら(米兵)と一緒にいると殺されてしまう』捨て駒にされる』と自衛隊員らは訴える。



# 自衛隊の海外派遣



防衛省のビデオカメラを見る海外派遣隊員たち(海上自衛隊)

インド洋やイラクなどへ海外派遣されていた自衛隊員16人が、在職中に自殺していたことが明らかになった。政府答弁だが、本当の数字かどうか分からないが、それでも衝撃的な数字だ。何が原因なのか。

## 16人の隊員が自殺していた衝撃

「例えばインド洋の海自隊員は、毎日焼けたフラ

隊員は、毎日焼けたフラ

隊員は、毎日焼けたフラ

「そもそも自衛隊では、現地での隊員のケアはほとんど機能していない。上官に『異常はないか』と聞かれれば『ありません』で終わり、ともいわれています。イラク帰還兵問題で苦しむ米国では、PTSD(心的外傷後ストレス障害)対策が進んでいます。日本はまだこれからというレベルです(防衛省関係者)」

「新テロ法案や恒久法で海外派兵が当たり前になれば、自殺者増加に歯止めがかからなくなる。そ

### 自殺が多い自衛隊の中でも異様な数字

防衛省のビデオカメラを見る海外派遣隊員たち(海上自衛隊) 神的にも相当なストレスがたまるとは思いますが、(軍事ジャーナリスト・世良光弘氏) もともと自衛隊は自殺率が高いことで知られる。防衛省調べでは、05、06年度と自殺した自衛官はともに101人と過去最多を記録。今年度も計算だから深刻だ。 も半年間で53人と、これらを上回るペースだ。10万人当たりでも、06年度は38.3人。人事院がまとめた国家公務員の自殺率は(05年度)17.7人に比べて2倍強だが、自殺者が多い自衛隊の中でも海外派遣組はその3倍弱に過ぎない。今年度の計算だから深刻だ。

# ヘリが運 巨大ツ

